

緑窓

第15号



青山学院中等部緑窓会会報

2006年(平成18年)5月1日発行

青山学院中等部緑窓会 発行人 今村和久

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

電話/FAX 03-3498-5387

E-mail: ryokusoukai@ceres.ocn.ne.jp

ストラディヴァリウスが奏でる 祝祭

第17回緑窓会の日

6月3日(土)



山上ジョアン薫

心のふるさと、常に新たな中等部

緑窓会会長 今村 和久(十期)

今年も新年度の緑窓会の活動が始まり、第五十七期の卒業生二七四名を迎える事が出来ました。そして会の運営を行っていたただく方々も一部新たに加わっていただきました。青山学院の渋谷キャンパスの再開発事業も開始される予定です。私たち卒業生にとって中等部はいつも心のふるさとです。一方中等部は、青山学院の建学の理念と教育方針のもとに、日々新たな変革を遂げていくでしょう。同窓会であります緑窓会もこれらの状況を知りつつ、母校を応援し、会員相互の親睦を図りながら原点・祝祭・継続をモットーとした、しっかりとした活動を展開し祝けて行きたいと思えます。

皆懐方、青山学院に来てください!!

薄気味悪い時代の中で

緑窓会の日実行委員長 真藤 純一(十七期)

現在の本校舎が建って四十年が経ちました。我々十七期が三年の三学期に初めて入りました。あの頃は敷地内にクローバーや菜の花畑があって、などと書けば、最近の卒業生は何を寝言を言ってるのと思うでしょう。そういえば、学院の空も高層校舎の為に、大分小さくなりました。歳月を感じます。

個人情報保護法とやらもでき、「わが師わが友」と題された名簿もなくなりました。今後、緑窓会名簿の発行も難しいでしょう。こうして個人が孤立化される一方、ネット上には出すつもりもない情報が漂う薄気味悪い時代、創立六十年を迎える中等部の変わりぬ理念を共有する生身の同窓生が一つの所に会する意味は今まで以上に大きいと思うのです。

緑窓会の日(六月三日(土))

演奏者・講演者のプロフィール

●チェロ演奏・山上ジョアン薫氏

今、世界でもっとも期待されているチェリストの一人で、お母様は高等部十四期の壁島哲子さん。家族と共に二歳でカナダに渡り、直ぐに始めたチェロでまたたく間にその才能を発揮、師事した多くの先生の賞賛と期待を集め、北米では幼い頃から常に注目された。十六歳で「世界で最も期待されるチェリスト」に選ばれ、故ベルガメンチコフに最後の弟子として見出され十九歳でドイツに渡る。昨年暮には四年に一度の世界最高峰と言われるロストロポーヴィチ・チェロコンクールで上位入賞した。日本での本格演奏は今回が始めて。

●ピアノ伴奏・ヴァディム・グラドコフ氏

ロシアに生まれたグラドコフ氏は幼い頃からピアノニストとして特別な教育を受け、ソリストとして幾多のコンクールで優勝。スペインの音楽院で教鞭を執る傍ら伴奏者としても最優秀賞を受賞するなど、その活躍の場は極めて広い。昨年から伴奏者を務め、今回随行来日した。

●講演会・西山晃弘氏(旧姓・茂呂 十七期)

青山学院中等部、高等部卒、東京慈恵会医科大学卒。青山学院中等部校医。東京慈恵会医科大学総合診療部講師。二〇〇〇年三月まで東京慈恵会医科大学循環器内科講師。専門は心筋梗塞などの虚血性疾患、動脈硬化。現在は総合診療部で動脈硬化の予防をテーマに勉強中。医学博士。

「緑窓会の日」のご報告

十六期 実行委員長 松元 茂

十六回目を迎えた「緑窓会の日」が多くの皆様のご協力を得て、無事終了出来ました事をご報告いたします。

プログラムは向笠晴久君の司会進行でスタートしました。第一部の礼拝は、本所緑星教会の矢吹一夫牧師(七十七年青山学院大学神学科卒)に、「二倍の祈り」と題してお話をして頂きました。讚美歌を歌い、聖書のみ言葉を聴き、祈りを捧げ、例年通りタイのチャントミット社に送る献金を行い、参加者一同豊かな気持ちに満たされました。

第二部では椎名雄一郎氏(高等部四十一期生)のバイオルガンコンサートを演奏者ご本人のウイットのきいた解説付で楽しみました。ガウチャー記念礼拝堂のバイオルガンでの迫力ある素晴らしい演奏に圧倒された一時間でした。

第三部は会場を女子短期大学食堂に移し、懐かしい先生方を中心とした茶話会が開かれました。お元気な先生方のお話を伺い、楽しかった中等部時代の思い出に浸る事が出来ました。

今回「緑窓会の日」の実行委員長を引受けて多くの事を学びました。一つは「緑窓会」が多くのボランティアによって運営されていることです。卒業生も一万五千人を超え、組織も大きくなっています。運営には役員の方だけでなく、会員一人

一人の力の結集が必要です。これからも会費を忘れずに払い、少しでもお役に立ちたいと思えました。

二つ目はこの歳になって、中等部の仲間と力を合わせて何かをやる喜びです。今回は各クラスの男女二名を幹事に決めて進めましたが、今まで知らなかった面を発見したり、何かを頼んで快く引受けてもらって信頼が深まりました。五木寛之氏が「心が乾けば命が軽くなる」と書いていましたが、今回の経験で私の心はしっかりと重くなったような気がしています。



同期会便り

古稀の会

二期 高砂 雄一

中等部と高等部合同で「古稀の会」を開催した。

平成十七年十月二十二日に青学会館に集まった七十歳は百二十三名。

十年前の還暦の会、五年前の二〇〇〇年ミレニアムの会とはほぼ同じ数である。先生方もご壮健であった。中等部から

吉川和子先生、西川道子先生、高等部から筧弘毅先生、鈴木正一先生、大井

法子先生、波多江幸枝先生が出席された。外崎宏司君の司会、春日井恭四郎君の開会の辞、礼拝の司会は飯沢弘子さん、お祈りは北川はるみさんが行った。

筧先生の乾杯で会は始まり、先生方のご挨拶、玉井道夫君の謡曲、ケン川越とWestern Croonersの演奏などがあり、記念撮影、鳥養淑子さんの閉会の辞で「古稀の会」は幕を閉じた。次回は「喜寿の会」が節目であるが、七年先では間があるので中間の二〇〇九年に開催する案が有力である。

七期三年C組クラス会

関根 著

二〇〇五年六月に中等部七期三年C組のクラス会を行いました。卒業以来五十年近く経ってしまったのですが、十六名の出席でした。太田先生（八十五才）も出席の予定でしたが、体調がすぐれず残念ながら欠席されました。後日出席者の写真をお見せしたところ「昨日迄一緒に過ごしていたような気がします。」とおっしゃっていました。

綾小路きみまろに言わせると、希望に燃えた紅顔の少女少女達も今は「上りきっていないのに下り坂」「老け込むには早すぎる、連れ込むには遅すぎる」歳になってしまったというお話です。



しかし、第二の青春はまだまだこれから。人生丈夫で永持ちするためにはストレス解消が一番、童心に還って懐かしい師や友と語り合い、笑い転げて日頃の鬱憤を晴らすのがなによりです。毎年集まろうとの事なので、今回は父の日近くで行なったので、次回は母の日近くで開催をする予定です。次回は多数の参加を祈っています。

太田隆三先生を囲む会

九期B組 小山 敬

平成十七年四月十六日に、太田先生が住んでおられる国立市の日本料理「あ

んず亭」で開催。同期の他クラスゲスト五名を含め二十四名の参加でした。学友の長津田キリスト教会牧師油井義昭君のお祈りを皮切りに、先生を囲んで賑やかな雰囲気の中、久しぶりの旧交を暖めあいました。

先生も車椅子使用との噂でしたが、杖はお持ちになりながらも、大変お元氣な様子で安心しました。男性陣は既にリタイアした者、髪の毛が薄くなつた者など見受けられましたが、何となく静かで、同数の出席者の女性陣は相変わらず元氣で大声でじょう舌で中等部時代と同じでした。

既に天国に召された学友五名のご冥福を祈り、先生初め皆様のご健康を祈りつつ散会しました。



同期会便り

風流会—ゴルフ同好会

六期 山田 英邦

澄み切った秋空にナイスショット!!
昨年十一月十日、恒例の風流会ゴルフコンペ開催、好天の下、紅葉した木々に囲まれた大厚木CCCに総勢二十六名が参加。各組男女混合でプレー。四方山話にあふれ、和気あいあいとホールアウト。プレー後の懇親会は反省やら好プレーの話題で持ちきり。



緑窓会便り

緑窓会室のあるウェスレーホールの前
の木瓜の花が、今年も真っ赤に咲きほこり、春の訪れを感じさせてくれます。

2005年より広報担当は岩永さん(6期)、
門田さん(8期)。会計担当は鳥居さん(8期)、
河合さん(15期)になりました。また昨年より
パソコン担当として心強い仲間が増えました。
13期の梅原保さんです。これからも、いつで
も緑窓会のお手伝いをしてくださる方は歓迎
します。火曜日にチョットのぞきにきて下さい。

- 2006年度は2年に一度の緑窓会維持会費(2000円)を納めて頂く年です。2004年度より2年に一度になりました。

ご協力よろしく願います。

緑窓会室(火曜日 11時~16時)

TEL.FAX 03-3498-5387

この会は十五年前に同好の六期生が発起。「風の流れに沿うがごとく世の中に逆らわずに過ごして行こう。同期生のみならず家族、友人の参加も拒まず、時には集まってゴルフをやるよ」ということでスタート。毎年春秋に開催し、今回で三千回目(海外での開催含む)、会員は五十名。当時の初心者も今はベテランを差し置いて、上位入賞や、ニアピン賞を手にするほどに上達。男女交えてのプレーはとても賑やか、青山での共学の恵みを満喫しています。

第二五期一年E組クラス会

長谷川 秀美

平成十七年十一月二十三日、第二五期一年E組のクラス会が中等部卒業以来、三十三年ぶりに行われた。

卒業時ではないクラス会はあまりないことと思われるが、奥津雅子先生は中等部の在籍期間が短かく卒業生を送り出していらつしやらないことと、初めて担任されたクラスだということもあり、ぜひ先生とのひと時を過したいということから、今回の集まりとなった。当日は十七名の旧一Eが集まり、尽きない話に予定を大幅に超えた。四時間にはわたる一次会になり、さらに二次会に流れた人達もいたようだ。

先生曰く、「まとまりはないが、そ



れぞれが自由で一緒にいるのが居心地のいいクラス会」らしく、若かった雅子先生を随分と悩ませたこともあった悪ガキ達も、みんなすっかり素敵な中年になった。私達のいたずらを「そうだったかしら」と優しくかわして下さる先生に改めて感謝し、私達の行動の中でお褒めをいただけるようなことだけ覚えていてくださる先生に、一年E組で良かったと、振り返ることしきりだった。

これを機会にまたやりたいね!という声と、先生への尽きない感謝の拍手で散会となった。

次回をまた期待しつつ...

窪田先生との出会い

十一期 大村 修文

「窪田先生との出会いがなければ、自分のその後は相当違っていたかもしれない」という言い方は、お世話になった他の大勢の恩師に対して失礼かもしれないが、あえてそう言わせていただきたい。中部で窪田先生と出会い、山岳部の顧問として山登りの楽しさを教えていただき、授業において歴史の面白さと深さを教えられ、そして二、三年の担任として教師という仕事の生き甲斐を教えていただいた。それによって、私も歴史の教師になり、登山を生涯の趣味にするようになったのである。最も思い出に残っているのは、二年の時に南アルプスに入山して悪天候に遭い、山小屋の中で長くくすぶっていた私たちのために、雨の中を外で食



事の準備をお一人ですべてくださったことである。生徒に山の楽しさを味わわせてやれなかったからせめて、というお気持ちだったのだろう。後に高等部山岳部の顧問になった私が、先生のそういう面を十分受け継ぐことが出来たかはわからないが。

(二〇〇五年四月逝去されました。)

中村(池原)喜美子先生

二〇〇六年二月十六日逝去

金原末雄先生を偲んで

十期 今村 和久

二〇〇六年三月二十九日に金原末男先生が九十五歳と十一ヶ月のこの世での生を全うされ召天されました。

先生は中等部の国語の教師として一九四九年から一九七〇年の二十一年間御奉仕されました。先生の愛する西行法師の歌であります、「願わく



ば花の下にて春死なん その如月の望月のころ」の通りに召されました。

十期の萩原美恵子さんを中心に毎年卒業生の方々がおいししておりましたが、ここ数年は江戸時代の研究をなされており、そのお話を伺うこともできなくなりました。八王子霊園に埋葬されるということです。

厚生労働大臣に就任して

十四期 川崎 二郎



私は昨年十月に発足した第三次小泉改造内閣におきまして、厚生労働大臣を拝

命いたしました。

私共十四期は団塊の世代に生まれ、まさにこれからの厚生労働行政の焦点となっております。我々の世代が年金・医療のお世話になる目を目前に控え、皆様も大きな期待と不安を感じていると聞われます。

その他にも三位改革、雇用、アスベスト、BSE、子育て支援など、数多くの懸案に向かわなければならぬ職務ですが、これまで培ってきました経験を生かし、また青山学院で学んだ十二年間の精神を持って、職責を果たして行きたいと考えております。

『合同三期会』

米田 宗弘

十月二十二日に、中部部・高等部の合同三期会を開催した。先生八名、生徒八十九名のご参加を頂き、盛況裏に執り行うことができました。昭和三十年高等部卒業以来、今年は五十周年にも当たり、「人生五十年」の意味を噛み締めるひと時でありました。我々を慈しみ育てて下さった先生方との語らいの中に、現在では希薄になってきた当時の何かを思い出させてくれる同期会でもありました。来年は、我々も古稀を迎えます。先生方の益々のご健勝と我々の古稀を寿ぎ、次回の同期会を二〇〇六年十月二十三日(月)に青学大会館で開催いたします。三期生のご参加をお待ちしております。

緑窓会役員

会長	今村和久(十期)
副会長	崎田克己(十四期)
	伊藤正道(十五期)
	西本由里子(十八期)
会 計	鳥居照子(八期)
	河合陽子(十五期)
	岩永晴美(六期)
運営委員	倉持皓子(七期)
	門田美智子(八期)
	中野凱美(十期)
	梅原保(十三期)
	松田百代(十四期)
	磯部守孝(二十一期)
	富士野ゆかり(二十二期)
	須藤勉(三十五期)
	飯村肇(三期)
	田坂興亜(六期)
PC担当	
監 事	

中絶時代の部活の思い出はなし

シリーズ4

バスケット部 (籠球部)

小橋 洋子 (18期)



「女子バスケット部」の思い出をかくように、とのご指名を受けた時、緑窓会の広報担当役員の方の押しの強さに負け、つい、「はい。」と答えてしまいました。あの頃、困った時にはいつも頼りにしていた十九期のオシオ(塩沢直美さん)に早速電話したところ、あの頃と同じように、「もおー。オカドさんはー。相変わらず人を使うのが上手なんだからあー。」と抵抗されたのですが、最後には、あの頃と

同じように、「分りました私達でどうにかします。」と答えてくれました。あの頃から結びつきの強い彼女たちはアツという間に連絡を取ってくれたようですが、翌日のオシオからの電話は、あの頃と違って、一言、「無理です!」でした。高等部時代のこととは覚えていないけれど、中等部時代のこととは覚えていない。書く力のある人は一杯いるけれど、資料もないし、無理だ。——というのです。「どうして引き受けたの、と怒られちゃいました!」とのこと。あの頃と同じように、しっかりした下級生です。

さて、どうしよう。確かに、私も中等部のことと高等部のこととがゴツチャになっている。その上に、見本に送られてきたものは、現高中部部長の大村先生による山岳部と、あのオールブラックスから指導をうけたという思い出をお持ちで、中等部以降もその方面でご活躍の方が沢山いらっしゃるラグビー部、と立派なものばかり。一方、私には、大村先生がお持ちであろう資料もないし、ラグビー部の方達がお持ちの大きな思い出もなく、中等部としてのOB・OG会も存在しないので、多方面でご活躍であろう多くの先輩方や後輩達と面識がない。その上に筆力もない、フツの元中等部生です。第一、いつもいつも中等部のことを考えて下さっている広報担当役員の方でさえ、中等部と高等部を混同されています。バスケット部が、「男子バスケット部」「女

子バスケット部」に別れていたのは、高等部のこと、中等部では、男女一緒の「籠球部」でした。入学当時の正式名称は、バスケット部、バレーボール部、サッカー部、テニス部ではなく、籠球部、排球部、蹴球部、庭球部だった筈です。そんな名称に、乗車券が大人料金になったのと同じように、ちよびり大人になった気がしたと記憶しています。

翌日、仕事場で、「どうして十八期にまわってきたのかしら、と愚痴をこぼす私に、「そうですよね!」と同意してくれた相手の顔を見てハッとしました。「貴女も中等部ではバスケットじゃない!」……そう、二十一期の山本治美さんが、この十六年間、私の右腕となって支えてくれていたのでした。彼女の姉君、山本恵美さんとはクラスもクラブも一緒のあの仲良しでした。そんなご縁で、主人の特許事務所のスタッフを探していた頃、丁度開かれた同窓会の席で、話がポンポンと進み、今に至っています。何を思い出せるか、治美さん話し相手にあの頃を思い出してみました。

——私達十八期が入学した昭和三十九年(一九六四年)は、東京オリンピックの年。テニス部に入りたかったのに、数年前からのミッチーブームのお陰でテニス部は満杯、二学期まで待機、とのことで、待ちきれなかった私が入部したのが「籠球部」。

暗い木造の体育館での練習。

二年生になった頃、その体育館が火事になり、校舎立替えもあって、以降の練習は屋外のコートで。

新校舎は二年生の三学期に完成したものの、体育館は未だなく、練習は相変わらず屋外のコートで。

お昼休みや練習のない放課後になると、何となく集まってきてはシュート練習。その内、ボールを回し始め、ゲーム開始。

男子部員や十九期女子には人気者が多かったため、校庭にあったコートでゲームを始めると、ベランダは鈴なり(っ)の観客。

対外試合は、男子は、成蹊、駒場東邦、麻布との四校リーグ戦もあったものの、女子は、文化祭の時と私立学校の第四支部体育総合大会ぐらい。渋谷区の大

会にも出て三位になったという二十一期とは大違い。中等部時代に経験した試合数が少なかったことが、略每週、対外試合に出かけていた高等部の「女子バスケット部」へと繋がるの力も。

ただただバスケットを楽しんでいた当時の私達。

合宿は妙高高原、中等部入学前の治美さんが楽しみにしていたという姉君のお土産は、当時東京ではなかなか手に入らなかった笹(さん)。

その合宿は、どういう訳か、いつも、野球部と一緒に。そして、籠球部の付き添いは中村三朗先生。

顧問は堀奈津子先生、十八期入学の年に体育専任として着任された先生で、小柄ながら元気一杯。そしてとてもチャーミング。男子部員は勿論、皆が大ファンに。特に、合宿で野球部に付き添っていらした事務の阿部靖先生が大々ファンとなられたようで、その後先生は「阿部奈津子」先生に！

女子のコーチは、大学バスケット部の竹内さん。この方も元気一杯。そして、かなりキツイ練習。この頃培った体力のお陰で乗り切れてきたことが一杯。

男子のコーチ森さんは、一見、優しい方。でも、練習はやはりキツかった様子。

そんな断片的な思い出話の後、彼女が呟いたこと。それは、「石川先生は、私のような控えの生徒のことも、力を出し切って一生懸命努力していることはキチンと認めて下さっていた。」ということでした。

二十一期の頃の女子のコーチは、高等部に体育専任として着任されたばかりの石川苑子先生でした。先生は、東京教育大(現筑波大)バスケット部のキャプテンで、ユニバーシアード代表だった方。高等部の練習にも時々参加して下さっていて、やはり控えであった私も同じように感じていました。運動神経の良い人、学業の成績が良い人、音楽や芸術に秀で

てる人、自然を愛する人、自分の意見をキツチリと言える人、聞き上手な人、控えめな人、思いやりのある人、快活な人、落ち着きのある人、物静かな人、先頭に立ってる人、人を支えられる人——と人は色々。夫々、皆、素晴らしい。

けれども、物事は何でも両面を持つから見方を変えれば全てが弱点・欠点に繋がる。お互いのそんな両面や違いを認め合って、自分の出来ることを一生懸命にし、協力し、チームを作っていく。そんな学びの場が部活動だったように思います。そして、一生懸命に努力していればどこかで見ていて評価して下さいる人がいる。見える人には見える。分る人には分かる。そのことを実感できたことは、その後の彼女の人生でも私の人生でも大きな支えになってきたと思われま。実社会では目の前の結果を求められて、唯々一生懸命だけでは済まないこと、報われないことも少なくない

のは事実ですが、いい加減に済ませてしまおうのではなく、誠実に、一生懸命に取り組む姿勢の大切さを多感な若い時代に学べたのは幸せだったと思います。私が十六年間彼女に信頼を持ち続けてくれたのはそんな点だったのだ、と気が付きました。

を振り返る機会を与えられましたが、中等部一年の夏、父が他界するという悲しい出来事があったにも拘わらず、今「楽しい日々」だったと思えるのも、中等部の明るい雰囲気とこんな意義深い部活動のお陰ではないかと思えます。中等部と中等部に関わりのある全ての皆さまに……心から有難うございました！



中等部便り

★二〇〇六年度人事

部長	山本与志春
教頭	千輝克忠
宗教主任	西田恵一郎
教務主任	浦田浩
指導主任	小田文信
教研主任	橋本和美
一年学年主任	足田好子
二年学年主任	小田井孝
三年学年主任	石出道雄
事務長	竹本祥次郎

★異動

次の教職員が中等部を去られます。
 大村修文 先生(高中部長)
 R・ホフエロス 先生(英語)
 中久木真治 先生(国語)
 坂上 三男 先生(聖書)
 片山 裕 先生(英語)
 井ヶ田 彩 先生(美術)
 田川 美絵 先生(美術)
 小林 義一さん(事務)

★高中部中等部から中等部へ

二十年前に高中一貫との立場から
 高等部・中等部を一部として高中
 部とし、合同諸会議・人事交流な
 どを行って来ました。その後の社
 会情勢・校内事情などから一人部

長制の無理が生じてきたため、合
 同諸会議・人事交流を残しつつ、
 今年度から二部長制へ移行するこ
 とになりました。

★創立六十周年

中等部は今年度、創立六十周年を
 迎えました。現在いろいろな計画
 を検討中です。決まり次第中等部
 のホームページに掲載しますので、
 ご覧の上ご協力お願いいたします。

★各種行事

- ※オリエンテーションキャンプ
 入学直後の二泊三日 天城山荘
- ※磐梯高原キャンプ
 五月下旬の三泊四日 国民休暇村
 磐梯高原で自然体験学習
- ※沖繩旅行
 五月下旬の三泊四日 沖繩南部戦
 跡見学・文化的体験学習
- ※オーストラリア・ホームステイ
 夏休み中の約二週間 イマニユエル・
 ルーサン・カレッジ付属学校
- ※韓国訪問(隔年)
 春休み中の約一週間 梨花女子大
 学付属中学校
- ※フィリピン訪問(隔年)
 春休み中の約一週間 C.F.Jを通
 じて支援している子どもを訪問。

2005(平成17)年度収支計算書

自 2005(平成17年4月1日)
 至 2006(平成18年3月31日)

青山学院中等部緑窓会

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報制作費	520,800	会費収入	
会報送付費	1,230,523	2005年度入会金	822,000
会務用品費	531,062	維持会費	2,378,000
会議通費	56,636	諸収入	2,000
交通費	120,754	預金利息	818
水道光熱費	212,400	雑収入	10,000
通信費	12,000		
借付料	126,449		
人件費	93,870		
雑費	320,000		
	100,000		
	61,500		
	35,714		
本年度支出合計	3,421,708	本年度収入合計	3,212,818
当年度収支差額	-208,890	前年度繰越収支差額	8,155,042
次年度繰越収支差額	7,946,152		

緑窓会会計報告

会長 今村和久 会計 鳥居照子 監事 飯村肇
 副会長 崎田克己 同 河合陽子 同 平森均
 同 西本由里子